

慈悲の神

キー・ヴァース「主は憐れみ深く、情け深く、怒るのにおそく、ゆるぎない愛に満ちておられる。

詩篇103:8

厳選された聖典

詩篇103:1-14

墮落した人間の本性には、神への恐れを生む倒錯がある。神は気まぐれで、復讐心に燃え、人間の家族に対して敵対的であり、すぐに裁き、すぐに罰する。私たちのキー・ヴァースは、そのような考え方の誤りを払拭し、神は憐れみ深く、恵みに満ち、怒るのが遅い方だと語っている。

詩篇103篇は癒しのバームであり、私たちの思考を曇らせるかもしれない神への恐れを追い払う。主の民は、この詩篇を定期的に読み、考えることをお勧めする。詩篇の作者ダビデの歡喜に満ちた口調に注目してほしい。主が私にしてくださる良いことを決

して忘れませんように。主は私のすべての罪を赦し、私のすべての病をいやしてくださる。主は私を死から贖い、愛と優しい慈しみで私を覆ってくださる。主は私の人生を良いもので満たしてくださる。私の若さは鷲のように新たにされる！」1～5節

これは、創造主に対する真の、そして霊的に健全な見方を示している。彼は寛容である。恨みを抱かない。「私たちを非難し続けることもなく、いつまでも怒り続けることもない。私たちの罪のすべてを罰することもなく、私たちにふさわしいように、私たちに厳しく接することもない。主を畏れる者に対する主のゆるぎない愛は、地の上にある天の高さのように大きいからです。私たちの罪を、東が西から遠く離れているように、私たちから取り除いてくださったのです」9-12節。

使徒パウロも同じように神を評している：「それは、わたしがあなたがたに手紙を書いたのは、わたしが来たときに、わたしに最も大きな喜びを与えるべき人たちから、悲しまれないようにするためです。私の喜びは、あなた方が喜んでくれることによってもたらされることを、あなた方は知っているはずで。私は苦悩の中で、心を痛め、多くの涙を流しな

がら、あの手紙を書いた。あなたがたを悲しませたくはなかったのですが、私があなたがたをどれほど愛しているかを知ってもらいたかったのです」。(第2コリント1:3-4)。私たちの創造主は"憐れみの父"と認められている。"憐れみ"の複数形に注意。神の憐れみの現れは、多くの色合いと形で現れる。彼はまた、すべての慰めの神として識別される。神に人生を捧げている人々は、神の複数の憐れみと深い慰めを個人的に体験したことを証明できる。

ダビデの詩篇には神の憐れみというテーマが繰り返して出てくるが、それはおそらく、バテシバとの姦淫とウリヤの殺害という大罪に触発されてのことだろう。詩篇51篇の苦悩を考えてみよう。あなたの大きな憐れみのゆえに、私の罪の汚れを消し去ってください。私を罪の汚れから洗い流してください。私を罪から清めてください。私は自分の反逆を認めます。それは昼も夜も私を悩ませます。あなたに対して、そしてあなたただけに対して、私は罪を犯しました。あなたの言われることは正しいと証明され、私に対するあなたの裁きは正しい」1-4節

親愛なる読者の皆さん、私たちが憐れみの神を礼拝していることに気づくことで、同じような慰めを得ることができますように。「父がその子らに親切であるように、主はご自分を敬う者に親切である。主は、私たちが何でできているかを知っておられ、私たちがちりであることを覚えておられる。...主を敬う者には、主の愛はとこしえに続き、主のいつくしみは、その契約に忠実で、その命令に忠実に従う者の代々に至るまで続く。"詩篇103:13-18